

氏名(本籍)	中井智子(滋賀県)
学位の種類	修士(看護学)
学位記番号	修士第85号
学位授与年月日	平成19年3月26日
学位論文題目	診断群分類別包括評価の導入が及ぼした看護への影 響　バーンアウトと看護師離職、インシデント・ 医療事故発生の実態調査から

## 論 文 内 容 要 旨

※整理番号	87	(ふりがな) 氏 名	中井 智子
修士論文題目	診断群分類別包括評価の導入が及ぼした看護への影響 —バーンアウトと看護師離職、インシデント・医療事故発生の実態調査から—		
<p>厚生労働省は、2003 年より、診断群分類別包括評価〔Diagnosis Procedure Combination〕(以下、DPC)を導入し、平均在院日数の短縮、入院患者の重症化、看護業務量の増加をもたらした。</p> <p>本研究の目的は、DPC 導入により、看護師のバーンアウト、看護師離職、インシデント・医療事故発生、看護師離職とインシデント・医療事故発生の関連性を明らかにすることである。概念枠組みに基づき、(仮説 1) DPC 導入により、看護師のバーンアウトは悪化している、(仮説 2) DPC 導入により、看護師離職は増加する、(仮説 3) DPC 導入により、インシデント・医療事故は増加する、(仮説 4) DPC 導入後において、看護師離職はインシデント・医療事故の増加に関連性がある、を設定し、検証した。</p> <p>調査対象は、DPC 導入病院と DPC 未導入病院の計 243 病院に勤務する看護師と看護管理者とし、質問紙法による調査を行った。その結果、仮説 1 は、バーンアウトは、尺度を用いて得点化し、DPC 導入群と未導入病院の有意差検定を行なった。有意な差は認めず、DPC 導入によりバーンアウトが悪化したとはいえなかった。仮説 2 は、導入病院の DPC 導入前後での看護師離職率の有意差検定を行ったが、有意な差はなく、DPC 導入により看護師離職が増加したとはいえなかった。また、仮説 3 は、それぞれの病院で取りまとめられたインシデント・医療事故報告数によるインシデント・医療事故発生について、同様に有意差検定を行なった。結果は、導入後に有意な増加を認めた。従って、DPC 導入により、インシデント・医療事故発生が増加する可能性があることが示唆された。また、仮説 4 は、DPC 導入前と後それぞれに、看護師離職とインシデント・医療事故発生の関連性について、Pearson の積率相関係数を用いて検定した結果、導入前、および後においても、ほとんど相関がなく関連性はなかった。</p> <p>本研究から導き出されたことは、「DPC 導入により、バーンアウトの悪化や看護師離職を増加することはない。しかし、インシデント・医療事故発生に増加をもたらす可能性が高い。また、看護師離職とインシデント・医療事故発生には、関連性は認められない。」ことが明らかになった。</p>			

- (備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200 字程度)  
2. ※印の欄には記入しないこと。